

KN グローカルリサーチレポート

2020年7月
No.51



移動の自粛が解除されましたが、県外への出張は躊躇されるようです。その代替として、web での会議や商談が多くなりました。

内閣府の調査では、今回のコロナ禍で、3人に1人がテレワークを経験し、その多くが今後も継続を希望しているとの事です。テレワークへの課題として、社内打ち合わせの見直しや、ペーパーレス化、社内システムへのアクセスなどが挙げられています。

【梅雨の豪雨への備え】

例年7月は、活発になった梅雨前線で豪雨となる地域があります。浜松でも、昨年7月の豪雨で、伝馬町の地下道が冠水し、一部の家屋も浸水しました。

先日発表された「国土交通白書」によると、1990年から2009年に年平均約1,000件であった土砂災害の発生件数は、2010年以降は約1,500件と1.5倍に増加しており、気候変動による平均気温の上昇や降水量の増加により、自然災害リスクが増大していると指摘しています。

同省は『土砂災害は突然発生！身を守る3つのポイント』として、①ハザードマップで警戒区域を確認、②雨が降り出したら警戒情報に注意、③警戒レベル4で全員避難と、呼びかけています。

浜松市のハザードマップは、右のQRコードからご覧いただけます。



浜松市総合雨水計画（2020年2月策定）

持続可能で自然災害に強い安全・安心なまちづくりを推進するため「浜松市総合雨水計画」が策定された。この計画には、「浜松市川づくり計画」と「浜松市下水道ビジョン」で示した方向性に基づき、今後10年間で重点的に雨水対策を行っていくエリアとその対策方針がまとめられている。



【浜松の降雨の状況】

全国的に、大型台風や集中豪雨により浸水被害が頻繁に発生しているが、浜松でも時間雨量50mm以上の降雨の発生回数は、30年前に比べ約2.6倍に増加している。

図1は市内の浸水箇所だが、安間川中流部や、堀留川、高塚川の流域は浸水常襲地域となっている。

図1 平成4年～令和元年までの市内浸水箇所



出典：「浜松市総合雨水計画」より

アクティブラーニング ～米国HighScope幼児教育カリキュラム 視察記～ (No.9)

【重要発達指標 KDI:Key Developmental Indicators】

HighScopeでは、アメリカ合衆国政府が示す発達指標をカバーした8領域58項目の指標を基に、子どもの指導計画を作り、かつ、子どもの発達レベルを評価しています。(以下、8領域と、58項目からいくつかを例示します)



1. 学びへのアプローチ

- ・自分で計画し、それを実行する
- ・興味のある活動に集中する

2. 社会性と情動の発達

- ・ポジティブな自己同一性を有している
- ・他者に共感を示す
- ・社会的対立を解決する

3. 身体発達と健康

- ・自分の体を知り、空間に合わせて動かす
- ・自分自身で身辺自立を習慣づける

4. 言葉・読み書き、コミュニケーション

- ・言葉を使って自分自身を表現する
- ・文字の読みを識別する
- ・本の知識を有している

5. 算数

- ・ものを数える
- ・単位の概念を理解して使う
- ・模様や図形を区別したり創ったりする。

6. 創造的な表現活動

- ・芸術や音楽や動きなど、自分が観察し、考え、想像し、感じたことを表現する

7. サイエンスとテクノロジー

- ・身の回りの物や変化の様子を観察する
- ・期待したことが起こるか予測する
- ・結論を導く

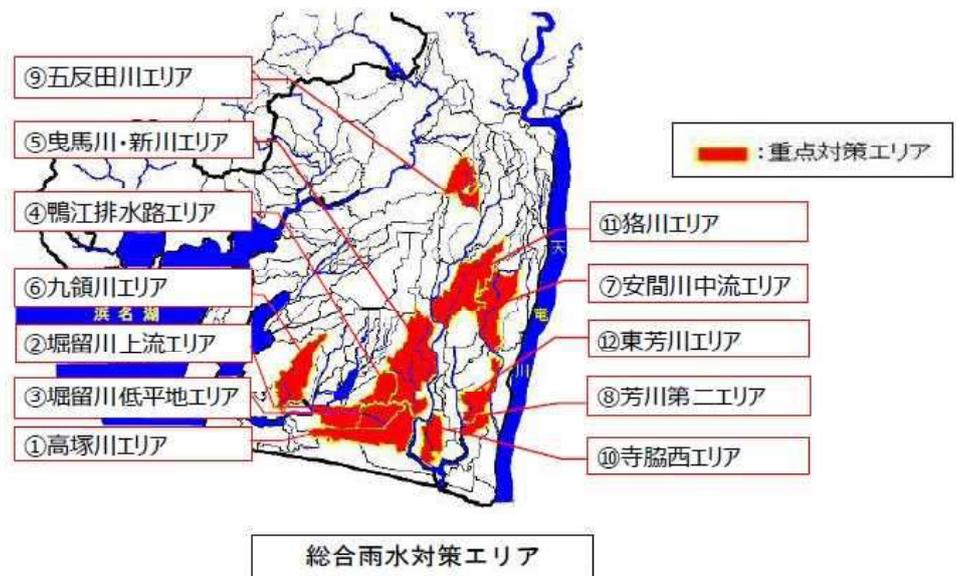
8. 社会

- ・教室内の意思決定に参加する
- ・人は多様な特性や興味、能力を持っていることを理解する

【雨水対策】

計画では、1時間50mm以上の降雨に対して、浸水被害の軽減を目標に、「水を流す」「水を貯める」「川を知る」の3つを軸に対策を行う。今年度は約4億円で、東芳川の断面拡幅や、長上地区周辺の排水路の改良、新川のコンクリート護岸の改良などが行われている。

図2 重点対策エリア(12カ所) 出典:「浜松市総合雨水計画」より



執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士
(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長
浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org